

学校運営方針		学校運営計画		評価
生徒に国家・社会の有意識な形成者となるための「知・徳・体」の調和のとれた教育を施し、確かな学力を育成し、他者との関わりの中での在り方・生き方や使命感を自覚させ、いじめの撲滅はもとより心豊かで力強い生き方ができる人間の育成に努める。				A
昨年度の成果と課題		本年度重点目標		
		具体的目標		
<p>〔成果〕産業教育フェアや地域交流イベントなどに積極的に参加することで、本校の魅力をアピールした。基礎学力定着のための「朝学習」を継続的に実施することで、海運関係21名をはじめとする93名の就職、大学や本校専攻科などに13名が進学するなど希望進路実現を達成することができた。体験航海や体験入学をはじめ、さまざまな地域交流により、本校の特色化・活性化をアピールすることで、中学校や地域から信頼される学校づくりを進めることができた。</p> <p>〔課題〕いじめの未然防止に取り組み、生徒一人一人が安心・安全で「居場所」のある学校生活ができる学校づくりを推進し進める。基礎学力の定着、向上のために毎日15分間の「朝学習」において、きめ細かな指導を粘り強く行うことで、生徒一人一人の進路を実現する。「海」に学びに学ぶ「水高」のもと、生徒一人一人が輝くことができる船舶職員、水産、海洋関連業界、食品関連業界などへの人材を育成する。平成29年度に「第37回豊かな海づくり大会福岡大会」が宗像市鐘崎で開催される。県内唯一の水産高校であり、開催地地元の高校として積極的な参加を推進する。</p>		<p>〔知育〕基礎・基本の定着と自ら学ぶ意欲・態度の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎日15分間の「朝学習」と習熟少人数指導を通して、確かな学力を身に付けさせる。 ○水高生としてのプライドを持ち、それぞれの体験活動を通して、専門的知識や技術・技能を習得させる ○3年間を通した継続性のある進路指導により、生徒一人一人の進路希望の実現を目指す。 <p>〔徳育〕授業および特別活動を通した言語活動の充実と倫理観の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○師弟同行の精神に立ち、愛情と信頼による教育を実践する。 ○いじめ防止基本方針に則り、いじめの撲滅と差別をなくす意思と実践力をもった生徒の育成に努める。 <p>〔体育〕基礎体力および物事をやり抜く忍耐力や責任感の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「体力向上プラン」により、基礎体力を向上させ、学校と家庭、地域社会が連携・協力し、生徒の心身の鍛錬に努める。 ○健康・安全に関する意識を高めさせるとともに、心身の調和的発達を図る。 		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
第一学年	基本的生活習慣の確立	教科担当者・養護教諭・カウンセラー・担任間の情報共有を図る	A	<ul style="list-style-type: none"> ・低学力生徒への支援や継続的な対策をもっと充実させていきたい。 ・特別な支援を要する生徒への支援方法についての情報が求められる。 ・遅刻者を減らす取組を担任を中心にしていただいているが、校則を守る指導についてはさらに推進させていく必要がある。 ・資格取得に関する体制づくりを進路部とともに、さらに充実させていく必要がある。 ・職業人として言動や立ち振る舞いに関する指導をさらに充実させていきたい。
	進路意識の涵養	遅刻・欠席・遅刻・早退をさせない。校則を守り、身だしなみを整えさせる	B	
	水高生としての自覚を持ち、水産業各分野の専門性を高める	卒業までに必要な資格を意識させ、今年中に必要な資格を取得させる	B	
第二学年	基本的生活習慣の確立	教科担当者・養護教諭・カウンセラー・担任間の情報共有を図る	A	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の先生をはじめ学年の先生方が、しっかりと生徒と向き合い対話をしながら取り組んでいる。しかし、問題行動への対応に追われ伸ばすべき生徒たちの指導がおろそかになりがちであった。 ・次年度は、まず進路意識を高め、目的意識を持った生徒の育成を目指す。
	進路意識の涵養	コースの特色を理解し、選択させると同時に卒業後の進路に結びつける。	A	
	水高生としての自覚を持ち、水産業各分野の専門性を高める	職業人として恥ずかしくない言葉遣いや立ち振る舞いを身に付けさせる。	A	
第三学年	3学年全員卒業、進路決定率100%を目指す。	面接を意図した身だしなみ、挨拶、言葉遣いの指導。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年スタート時に次のことが出来なければ結果が出せないとする。 ・学校の話を最優先にする・素直であること(言い訳をしない)・締め切りを守る。 ・3年次のスタートまでに、少なくとも進学(専門学校含む)か就職かを家庭の状況を踏まえて三者(生徒、保護者、担任)で確認しておく必要がある。 ・3年間を見直し、進路指導、教科指導、生徒指導が連携をとった指導が必要である。
	科、コースの特性に応じた進路決定率を60%以上とする。	朝のHR前時に、各クラスの巡回を行い、生徒の変化の早期発見に努める。	B	
	生徒指導は学年で共通理解を持ち、進路指導は進路指導部・各科コースと連携をとり指導に役立てる。	インターシップを活用し、勤労観や職業観の向上	B	
教務部 教務課	中途退学者の減少	進路情報の提供、資格取得の場を提供	A	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習は、体制の面では確立していると思うが、生徒の実態に即した内容の検討を進めていく必要がある。そのための検討委員会等の発足が必要。 ・生徒募集については、次年度は中学校を担当制にして年間通して同じ先生がその学校に生徒募集に行く方法などを検討する。 ・1、2年生で開始した「心の教育(道徳)」を継続し推進する。 ・学年補講は、各学年で欠点の数によるクラス編成など工夫をし充実した補講になっている。このように有効的な手立てを継続し、共有する。
	基礎学力向上と高度な専門知識や技術の習得	学校行事や生徒会活動を通して、学校を引っ張るリーダーの育成	A	
	生徒募集につながる広報活動の推進	学年HRなどで教員の講話を行い、日本の水産業への関心を高める。	A	
教務部 企画広報課	道徳教育の推進委員会の充実と計画的な指導の導入	進路ノートを活用し、1学期末までに進路指導室全員利用を目指す	B	<ul style="list-style-type: none"> ・差し込み印刷(データ流し込み)により各種案内状を送付しているが、一部データが破損していた。アクセス権設定を検討する必要がある。 ・ホームページ上で、日本一の水産高校を目指す本校の姿をアピールすることが出来なかった。各分掌にお願いするだけではwebページ更新が出来ない現状を考慮すると、ホームページ更新担当スタッフを割り当て、作業集約をすることが現実的であると思われる。 ・授業用PO管理については管理職の力を借りて徹底する必要がある。
	適切な時期に学校行事の立案を行う	進路ノートを活用し、履修書を1枚以上作成させる。	B	
	日本一の水産高校を目指す本校の姿をアピール	1学期末までに履修書を1枚以上作成させる。	B	
生徒部 生徒指導課	基本的生活習慣の確立	各コースの先生と協力し、面接指導を複数の教員が行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が率先して挨拶を行うことで校内外において挨拶をする生徒が多くいる。生徒指導課教員を中心とした玄関前指導が効果的である。次年度からできる限り多く取り入れる。 ・生徒会が関わる行事は、積極的に活動ができて成功している。各種委員会は積極的に活動している委員会もあるが、全般的に活動が低調であった。活動内容や活動方法の再検討が必要である。 ・いじめのない学校づくりについては、アンケート結果や日常生活で気になる生徒の言動、動向に対して学年を中心に早期対応をすることができている。今後は人間関係づくりに関する活動を取り入れる等、いじめ未然防止に取り組む。 ・生徒の検診結果について、生徒保護者へ通知を確実に行う。 ・毎日の清掃、学校行事前後の清掃活動をさらに向上する方向へ進みたい。 ・学校生活及び通学、社会生活の中での感染症(インフルエンザ)対策について、生徒の知識、理解を高め、生徒の意識高揚、喚起に取り組む。
	生徒会活動の充実を図る	進路先や、就職先と希望生徒との相性を考慮した進路指導を行う。	B	
	いじめのない学校づくりに努める	朝礼、終礼、学年集会、朝学習等を利用して、試験で合格を勝ち取れるような態度を身に付けさせる。	B	
生徒部 保健環境課	学校保健、生徒の健康、基本的生活習慣の確立	学年内で情報共有し、進路指導部、各科コースと連携をとって指導をおこなう。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路意識を高めるためにも、3年間を見通した進路計画と資格取得計画を提示する必要がある。 ・朝学習の教材を独自教材を作成するか、業者からの教材を活用するか、教務部・各学年と協議し、基礎学力向上に取り組む。 ・進学希望者の放課後学習の定着、また、国公立大学進学を希望者へ早めの学習指導の実施が必要である。 ・各学科に応じた就職先の確保のため、会社訪問を実施する必要がある。
	校内美化の推進、教育環境を整える。	面接にしっかりと参加し、成績不振者を対象とした補講を充実させる。	A	
	保健に関する情報の適切な取り扱い、環境衛生活動の保守保全推進	教科担当者会議、中途退学防止委員会を定期的に開催する。	A	
進路部 進路指導課	全生徒の進路保障	各課と連携し、朝学習の充実や課題学習など、学習習慣の改善を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業及び研究授業週間の参観者数を増やせるように日程ややり方を改善する。 ・(公開授業:公開対象を保護者だけに限らず地域など広範にする。研究授業:研究授業週間に各科先生方まんべんなく実施してもらう。) ・校内職員研修会の内容が学校の実態に合ったものになるよう職員アンケートなどから意見を吸い上げて立案する。 ・貸出冊数が昨年度より増加しているが、さらに冊数を伸ばすために広報などをしっかり行う。
	基礎学力と資格取得の推進	授業実践を徹底する。行事の精選を図り、授業確保に努める。	B	
	3年間を見通した進路指導の推進	中学校訪問、進路相談事業などの内容の充実を図り、借庫アップを目指す。	A	
進路部 研修図書課	教職員の授業力向上	生徒の居場所を作り、適切な指導のもと、自覚と誇りを持たせる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の定例化 ・情報共有と業務分担の振り分け(責任をもって業務を行う体制を作る) ・卒業後の船会社の残留率調査 ・乗船実習に関する課題の解決 ・3級養成施設申請と免許講習の申請 ・QSSを軌道に乗せる
	校内・外の充実した職員研修	道徳教育を意図した取り組みを行う。	B	
	図書館の利用促進と利用マナーの向上と芸術鑑賞の実施	道徳教育推進委員会を学期に1回開催し、道徳教育を推進する。	B	
海洋科 航海コース	国土交通省養成施設としての教育システムの整理	道徳教育を意図した取り組みを行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の毎始業時に注意を徹底し、大きなケガはなかった。課題研究において、自発的に取り組めない生徒がおり、教員側の目が行き届かない部分があった。 ・班の状況により、総合実習のように、きちんと毎時間ノルマを決めた方が良いかもしれない。 ・2組については、乗船実習がないため、科目「船用機関」の指導に更なる工夫が必要である。 ・ベテラン教員の頑張りにより、専攻科で一級海技士の筆記試験全科目合格を三名輩出した。反面、一部教員に実習が集中し過負担となった。
	船員後継者の育成	道徳教育を意図した取り組みを行う。	B	
	海洋科(航海・機関)の教育内容の理解を深める	道徳教育を意図した取り組みを行う。	B	
海洋科 機関コース	安全教育の徹底	道徳教育を意図した取り組みを行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理、潜水指導、資格取得水深については軌道に乗ってきたが、進路意識の高揚についてさらに指導を深める必要がある。潜水会社やサルベージ会社を対象とした会社見学や社会人招聘講師の活用等を利用して指導を充実させたい。 ・水深5m程度の管理されたプールでの実習を取り入れたい。昨年度話があった博多の森のプールもしくはサバイバルセンターでの実習を実現させたい。
	専門科目への意識付け	道徳教育を意図した取り組みを行う。	B	
	職員自身の健康管理	道徳教育を意図した取り組みを行う。	B	
海洋科 マリノ技術コース	安全で有効な実習体制の確立	道徳教育を意図した取り組みを行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理、潜水指導、資格取得水深については軌道に乗ってきたが、進路意識の高揚についてさらに指導を深める必要がある。潜水会社やサルベージ会社を対象とした会社見学や社会人招聘講師の活用等を利用して指導を充実させたい。 ・水深5m程度の管理されたプールでの実習を取り入れたい。昨年度話があった博多の森のプールもしくはサバイバルセンターでの実習を実現させたい。
	水中作業に関する技術を確立する。	道徳教育を意図した取り組みを行う。	B	
	資格取得の推進	道徳教育を意図した取り組みを行う。	B	
食品流通科	新商品の開発	道徳教育を意図した取り組みを行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教科において、実験実習を取り入れてきたが、年間を通しての計画が必要である。また、段階をおった内容を検討していく。 ・新商品の開発にも積極的に取り組み、実現したい。また、知的財産教育は、授業内で各段階をおって取り組む。
	知的財産教育の推進	道徳教育を意図した取り組みを行う。	B	
	地域との連携	道徳教育を意図した取り組みを行う。	B	
アクアライフ科	安全な実習体制の確立	道徳教育を意図した取り組みを行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「Tプロ」や「豊かな海づくり大会」に関する活動、地域のイベントへの積極的な参加等幅広く活躍できた。次年度も積極的に取り組んでいきたい。 ・カキ養殖も軌道に乗り地域に貢献できたと考えている。 ・また、井戸海水取水施設が完成し、海水魚養殖も企画していきたい。
	地域との連携強化	道徳教育を意図した取り組みを行う。	B	
	海産魚類養殖実習の確立	道徳教育を意図した取り組みを行う。	B	